

# あいらの歴史と物語

## 令和4年度の「歩き・み・ふれる歴史の道」

始良市教育委員会 社会教育課 文化財係 岩元 康成

令和4年度の「歩き・み・ふれる歴史の道」は、今年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にちなんで、加治木町木田地区の鎌倉時代の史跡・文化財を中心としたコースで実施しました。

木田地区には中世・鎌倉時代に加治木を治めていた加治木氏に関連する春日神社や岩屋寺跡、市頭遺跡などがあり、これらに加えて龍門瀧や龍門司坂などの周辺の史跡もめぐりました。

鎌倉時代の始良市を含めた大隅国は、島津荘と大隅正八幡宮（現在の鹿児島神宮）の荘園に大きく二分されていました。なお、惟宗忠久は島津荘の管理を任されたことから島津姓を名乗り、戦国・近世大名として続く島津家の初代となっています。

始良市域は当時大隅正八幡宮の荘園で、加治木を領有していた加治木氏は、神宮の馬を管理する御馬検校という役職についていました。鹿児島神宮との深いつながりは現在まで続いており、毎年2・3月に開催される初午祭では、木田地区の御神馬が先頭で馬踊りを奉納します。また御田植祭では、木田地区で育てられた苗が神田に植えられます。

5月28日はちょうど御田植祭直前であり、木田の苗代田でこの行事について説明を聴くことができました。また、新型コロナウイルス感染症対策のために今年の御田植祭当日には唄われない「田植え歌」を披露していただき、すばらしい体験となりました。

今回は約40名と多くの方にご参加いただきました。道中は岩屋寺跡での坂の上り下りや長い距離を歩く行程でしたが、最後まで無事に終了でき、鎌倉時代の加治木や木田地区に残る伝統に興味を持っていただけたのではないかと思います。



御田植祭苗代田で説明を聞く様子

## 木田郷の田植え歌

竹之内 茂

鹿児島神宮の御田植祭は、島津家第15代島津貴久たかひさ えいろうくが永禄3年(1560)に神田きしんを寄進した翌年の旧暦5月5日に始まったといわれ、以来約460年続いています。



御田植祭の約1カ月前に、木田にある神宮の苗代田なえしろたにて、播種祭はしゆさい(種粃時たねのみまき)が執り行われ、育てられた苗は鹿児島神宮に運ばれます。

御田植祭では、木田の青壮年が昔から伝承されている田植え歌ほうしやうを奉唱きおとこする中で、早男さおとめ・早乙女が早苗を植え付けます。

《木田郷の田植え歌(田人歌)》

1. 水もゆらゆら 田もゆらゆら とはねいやれ その田の稲が 畦にゆらゆら
2. ゆらいさらい さんざらい とはねいやれ でけさし みしや 花の八月
3. 花の八月 はんのくどのは ねいやれ 花はちけんで やよの約束

この田植え歌は、田の水が十分にあり豊作でありますよという願いを込め、木田郷の子々孫々に、口頭伝承で歌い継がれてきました。

そして、報恩・感謝と御祭神に真の奉仕を誓った意味の大変古い歌です。

## 蒲生中学校郷土学習

文化財係 池田 亘

今年5月26日(木)、蒲生中学校3年生の総合的な学習「郷土学習」の一環で、蒲生地区史跡巡りが行われました。

コースはテーマごとに4つに分かれ、歴史ボランティア協会が各コース3人で引率し、説明を担当しました。当日の天気は雨で、足元が悪



い中での実施となりましたが、生徒たちが熱心に解説を聞いている様子や多くの疑問について質問が出たことから、蒲生の歴史について興味をもってもらえたかなと感じました。また、雨で一部行程を省略したコースについては、教室に早めに戻り、史跡の解説や質問の時間を設ける等の対応を工夫しました。



普段、見落とされがちな身近にある地域の文化財から郷土の歴史に思いを馳せる良い機会になったのではないかと感じた1日でした。

7月16日(土)に日木山地区の史跡ガイドが開催されました。私の担当は加治木島津家墓所(国指定史跡)で、加治木の文教の基礎を作った加治木島津家第6代久徴について主に説明しました。久徴の右腕として、毓英館の創設に尽力した長崎出身の儒学者・伊藤世肅(墓は市指定文化財)の子孫の方も参加されており説明に緊張しました。また、同墓地内には加治木島津家分家の村橋家の墓もあります。子孫には日本初の官営ビール工場(現サッポロビール)創設等に尽力した村橋久成(薩摩藩英国留学生)がいると説明したところ、「村橋家のものです」とご婦人が名乗られ本当に驚きました。このように著名な文化人の子孫が今も住む加治木は、県下でも特筆される歴史と文化をもつ町であると再認識させられました。



説明中の筆者

## 「デグ寺」の伝承と中世の中村集落

竹之下 洲一

本年6月、漆地区で「デグ寺紀行～漆に伝わる僧侶と狐へ会いに～」というイベントが西由紀子氏の呼びかけにより催されました。

「デグ寺」は、中世漆の中村集落にあったとされる寺で、境内は集落全域に及んでいたといわれます。寺に関する記録はありませんが、多くの伝承が残っています。「デグ寺」は中世末には同じ漆にある三所権現のある場所に移り、江戸時代初めには廃寺となったようです。



永仁五輪塔

中村集落には、入口の宮路家にある鎌倉から室町時代のものと考えられる石造物の他に、永仁7年(1299)造の五輪塔や康永4年(1345)造の2基の板碑があります。また、西ノ堂には鎌倉時代のものと思われる「一字一石経塚」もあります。



康永板碑

中世、中村集落周辺は「デグ寺」を中心に仏教文化が花開いた地域だったようです。

令和4年度夏季特別展

「養蚕のしごと」概要

令和4年7月22日～8月31日に始良市歴史民俗資料館において夏季特別展が開催されました。TVや新聞にも取り上げられ、たくさんの児童生徒やご家族が来訪されました。

カイコの生態や飼育法の解説パネルや養蚕に携わる女性を描いた浮世絵、館所蔵のまゆから糸をとる道具など展示総数は49点に及びました。

期間中は生きたカイコも展示され、日々成長する様子を観察することもできました。成長の様子が気になるのか、複数回来館された方も多く、大好評のうちに終了しました。



## 「ともに活動しましょう」

歴史ボランティア協会会長 宮内 伸一

始良歴史ボランティア協会は、始良市歴史民俗資料館の活動に積極的に参加し協力することを目的として、平成19年(2007)に12名でスタートしました。

現在6期生までの14名が在籍していますが、高齢化が進み、体調不良等で常時活動できる会員が少なくなっているのが現状です。

ボランティア活動なので、楽しく一緒に活動できることが生きがいづくりと考えていますが、始良の歴史が大好きな仲間が増えないのはとても残念です。

そこで、今年はたくさんの仲間が増える活動に積極的に取り組んでいます。協会のPR活動はもちろん、あらゆる機会に、歴史好きな皆さんに「ともに活動しましょう」と呼びかけていきます。また、「史跡めぐり」や、コンパクトで始良の歴史が満載の「歴史ボランティアガイド養成講座」等も開催します。

始良の歴史に興味がある皆さん、ぜひ、「生きがいづくり」として、ともに活動しましょう。

ご参加をお待ちしています!



※詳しくは、始良市歴史民俗資料館まで、お問い合わせください。

TEL 0995-65-1553

※10月より歴史ボランティア養成講座を開始する予定です。詳しくは市の広報誌AiraViewでお知らせしますので、ご注目ください!!

## 新規刊行書籍の紹介

始良市では、この度『始良市誌第2巻 中世・近世編(3,400円)』と、『始良市誌史料十<sup>じゅう</sup>(2,000円)』の2冊を発行しました。始良市の歴史に興味のある方には好評を得ています。歴史民俗資料館で購入できます。



※お問い合わせは始良市歴史民俗資料館 (TEL 0995-65-1553) まで。

## 編集後記

迫村 あけみ

今年度より協会の組織に変更があり、部会が三部制から二部制となり、広報誌も年2回の発行とし、各部交代で発行担当することになりました。本号が今年度最初の発行となります。

収束するかのように見えた新型コロナも、オミクロン株の発生であつという間に元の木阿弥というか、それ以上の陽性患者を生んでしまいました。幸い、行動制限は受けていないので、当協会の活動も活気を帯びてきており、その活動の一部をまとめました。

本号がお手元に届くころには、この暑さが少しでも和らいでいる事を願いつつ、ペンを置きます。